

令和3年6月7日

福岡市保健福祉局

市政記者各位

「福岡オレンジパートナーズ」と「オレンジ人材バンク」を設立！

～ 認知症フレンドリーシティ・プロジェクトの新しいチャレンジ ～

福岡市では、「認知症の人が住み慣れた地域で安心して自分らしく暮らせるまち」を目指し、「ユマニチュード」の普及促進や「認知症の人にもやさしいデザインの手引き」の策定など、認知症フレンドリーシティ・プロジェクトに取り組んでいます。

この度、認知症の人の「支援」からステップアップし、**認知症の人がいきいきと「活躍」できる環境づくりを進めるための新たなチャレンジ**として、別紙のとおり、**産学官民オール福岡で構成する「福岡オレンジパートナーズ」を設立する**とともに、認知症の人と企業・団体が円滑に連携していくため、**日本初、認知症の人だけが参加できる「オレンジ人材バンク」を設立**します。

今後は、参加企業による勉強会などを通して、企業の認知症の人たちへの理解促進を深めるとともに認知症の人が企業に意見を提供できる仕組みづくりを行います。広く周知していただきますようよろしくお願いいたします。

【お問い合わせ先】

福岡市保健福祉局認知症支援課 笠井、久本

電話：092-711-4891（内線2107）

FAX：092-733-5587

認知症フレンドリーシティ・プロジェクトの現状と課題

○認知症の人や介護者への支援施策の取り組みは順調

○認知症の人や介護者が住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らすためには、社会参加できる場、活躍できる場が必要

これまでの取り組みをさらに加速し、認知症の人の「支援」から「活躍」へのステップアップを図るために、産学官民オール福岡で構成する「**福岡オレンジパートナーズ**」を設立する。

政令市初！

福岡オレンジパートナーズ（福岡市版DAA）とは

○認知症について、企業等が自主的に「知る」「考える」「つながる」「行動する」ためのコンソーシアム。参加者が認知症を理解し、認知症にフレンドリーなサービス等を提供することが非常に有益であることを共有し、その創出につなげ、認知症にやさしいまちづくりを推進する。



【具体的な取り組み】

- 認知症に関する勉強会の実施
- 企業と認知症の人等とのミーティング
- 企業ネットワーク構築の場の設定
- 各企業取組の支援 等

【目指す成果】

- 認知症フレンドリーなサービス、商品の開発
- 認知症の人、介護者が活躍できる場の創出 等

福岡オレンジパートナーズにおける相互連携の強化

○平成30年度よりプレ勉強会「NEXTミーティング」を8回実施。これまで約90の企業、団体等の中核事業の責任者や担当者が参加している。

○その企業の中で、認知症の人とともに商品開発を行った事例や従業員として働く事例が生まれており、福岡オレンジパートナーズでは、このような取り組みを一層推進していくため、相互の連携を強化していく。

そこで、福岡オレンジパートナーズにおける認知症の人と企業・団体と双方向の関係性を強化するべく、認知症の人の活躍をサポートする「**オレンジ人材バンク**」を設立する。

日本初！

今後のスケジュール

R 3年6月 第1回NEXTミーティング（参加企業・団体の勉強会）実施



- 年間6回程度 NEXTミーティングを実施
- 企業・団体の取り組みを支援

日本初!

「オレンジ人材バンク」設立について

福岡100
人生100年時代への
チャレンジ

認知症の人と企業が双方向に関わりを持ち、商品開発などを行うことで、共に暮らせる共生社会を構築するとともに、認知症の進行を遅らせ、長く自分らしく活躍することにつなげる。

【オレンジ人材バンクの役割】

◆企業が当事者の声を聞く「この商品どう？」

企業が認知症の人の声を取り入れた商品開発を行うためのモニター制度

◆当事者が企業へ声を届ける「こんなのがあったらいいな」

認知症の人が自分らしく暮らしやすい社会環境実現のために意見やアイデアを発し、社会への参加や活躍ができる機会の創出

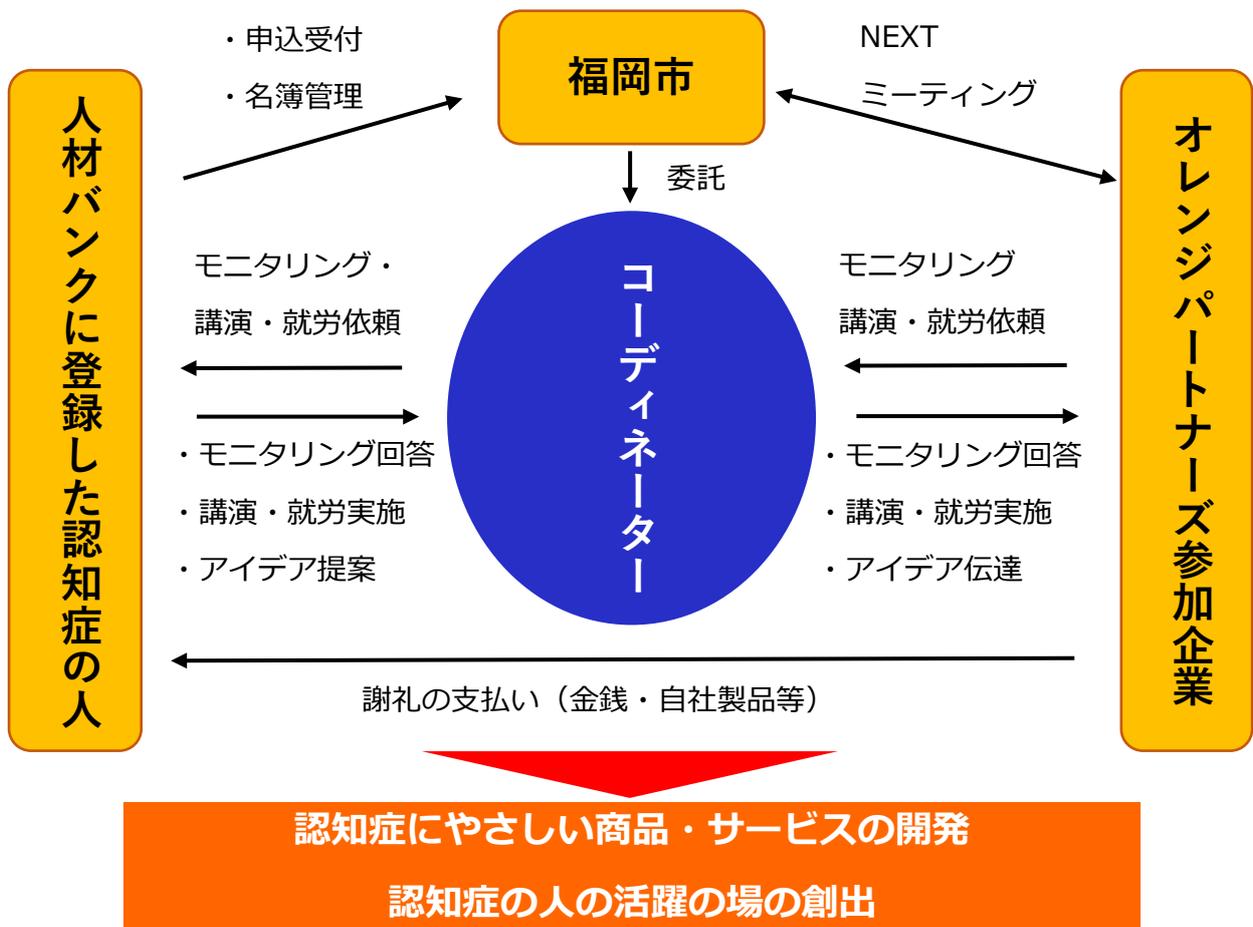
◆当事者の生活や困りごとなどを知る「当事者の話が聞きたい」

講演などを通して、企業などが認知症の人の話を実際に聞く機会の創出

◆当事者が企業で就労する「認知症になっても働きたい」

認知症の人が企業と雇用契約を結んで、定期的に働き社会で活躍する機会の創出

【事業イメージ】



福岡オレンジパートナーズ参加とオレンジ人材バンク登録についてお問い合わせ先

福岡市保健福祉局認知症支援課

電話：092-711-4891

【参考】「認知症フレンドリーシティ・プロジェクト」について

福岡市は、認知症の人が増加していくことが見込まれる中、「福岡100」のリーディング事業として、認知症施策全体を「認知症フレンドリーシティ・プロジェクト」と総称し、認知症とともに住み慣れた地域で安心して自分らしく暮らせるまちづくりをオール福岡で推進しています。

平成29年度にプロジェクトを開始し、これまで、認知症コミュニケーション・ケア技法「ユマニチュード」の普及や「認知症の人にもやさしいデザインの手引き」の策定など、認知症の人や介護者の方に向けた様々な支援に取り組んできました。

今後、認知症とともに生きる「共生」を推進するためには、現在の取り組みをさらに加速させるとともに、産学官民の様々な団体と連携しながら、認知症の人が活躍する場の創出を図るなど、これまでの「支援」から「活躍」へのステップアップを図っていくことが重要となっています。

※参考：認知症の人の状況

- ・2019年＝全国で約630万人（小学生の数と同規模）
- ・2025年＝全国で約730万人（高齢者の5人に1人は認知症と推計される）

■ 「認知症フレンドリーシティ・プロジェクト」の展開

これまで＝認知症の人の「支援」

【取り組みの内容】

- ◆ ユマニチュードの普及促進（平成29年度～）
- ◆ 「認知症の人にもやさしいデザイン」ガイドラインの策定（令和2年3月）
- ◆ ICTの活用による認知症の早期発見（平成30年度～）
- ◆ 認知症カフェの開設促進（平成30年度～補助事業開始）
- ◆ 認知症本人のピアサポート活動支援（令和元年度～）
- ◆ 認知症サポートチーム（認知症初期集中支援チーム）の設置（平成29年度～）など

これから＝認知症の人の「活躍」

【取り組みの内容】

- ◆ 「オレンジアクティブ」（認知症の人の活躍の場づくり）の展開（令和2年度～）
- ◆ 「福岡オレンジパートナーズ」の創設（令和3年6月） など

1 株式会社 宮脇書店 様

○宮脇書店アイランドアイ店において「オレンジアクティブ」（認知症の人の活躍の場づくり）を先行実施。令和2年10月より、月1回のペースで認知症の人が働いている。

【働いている認知症の方のコメント】

- ・（1回目のお仕事を終えて）大変緊張したが疲れはない。夢のようなこと。私は生まれ変わりました。
- ・（3回目のお仕事を終えて）お仕事が楽しみで仕方がありません。生活に張りが出ています。

【宮脇書店の方のコメント】

- ・（これまでを振り返り）正直はじめは心配していましたが、パートナーの方もついてくださるので、スタッフも今では安心して一緒に仕事をしています。ご本人の明るく素敵な笑顔によって書店の雰囲気も明るくなりました。

2 株式会社 ニチリウ永瀬 様

○園芸資材卸販売、飼肥料原料販売等の専門商社である「株式会社ニチリウ永瀬」が、認知症と園芸の親和性を見出し、医療法人や他のデザイン会社との共創で生み出した園芸グッズ。

3 ヘルスケアリンク株式会社 様

○看護小規模多機能型居宅介護「香風館」に「認知症の人にもやさしいデザインの手引き」の考えを導入。令和3年4月オープン。

【施設を利用している認知症の方の様子】

- ・自分からトイレに行くことがなかった方が、自分からトイレに行かれるようになりました。サインや周囲とのコントラストにより場所や目的を理解されたのだと思います。

【介護施設スタッフの感想】

- ・コントラストをつけているので、わかりやすく介助しやすい。
- ・ドアの色分けによって、利用者に場所を説明しやすい。

【利用者のご家族のコメント】

- ・数年ぶりに自分の仕事を再開できました。

4 独立行政法人 UR 都市機構 様

○UR賃貸住宅の自治会や民生委員の方、UR現場スタッフ向けにユマニチュード講座を実施。

○UR賃貸住宅の一部の集会所や管理サービス事務所の改修において、既に取り組んでいるユニバーサルデザインに加え、「認知症の人にもやさしいデザインの手引き」の考えを取り入れる方向で検討を進めている。

